第２９回

住まいのリフォームコンクール

入　選　作　品

第２９回住まいのリフォームコンクール

住宅リフォームの普及促進と質の向上を図るために、「住まいのリフォームコンクール」を開催しました。単に「リフォーム」と言っても多岐に渡り、これからの高齢化社会に配慮したバリアフリーリフォーム、地震に備えての耐震改修、地球環境に配慮した省エネリフォーム、伝統技術の継承を生かした古民家再生、長く使える工夫を施したリフォームなど様々です。

数ある応募作品の中でも、特に安心・安全・快適な住まいへと変貌を遂げた「リフォーム事例」の受賞作品をご紹介します。様々な創意・工夫に溢れた良質なリフォーム事例に触れることで、今後リフォームを考える方々の少しでもヒントとなれば幸いです。

第２９回「住まいのリフォームコンクール」審査講評

住まいのリフォームの優れた事例を表彰してリフォームを推進することを目的とした、（公財）鹿児島県住宅・建築総合センターの主催する「住まいのリフォームコンクール」は今年で29回目となった。今年の応募作品は、木造住宅、鉄筋コンクリート造など14件だが、例年に比べて見ごたえのある作品が多く、古民家の改修も目についた。総務省が平成30年に実施した住宅・土地統計調査によると、全国の空き家率は13.6%、鹿児島県の空き家は約15万戸で18.9%、全国6位で全国平均を上回り、九州内ではトップである。それらの空き家を活用するためには、リフォームの果たす役割は非常に重要である。私も学生と古民家を改修しているが、シロアリの被害が甚大で、水廻りは解体せざるを得なかったため、大量のモルタルや煉瓦のガラ、合板等が山積みとなった。解体新築よりも改修は廃棄物が少ないはずと安易に考えていたが、自分たちで解体し分別する労力も随分大変で、その処分費もさらに予想以上だった。無垢の木材は大工さんが再利用するか、一部は薪ストーブの燃料にもらっていただけたが、多くの廃棄物は処分場に運ばざるを得なかった。日本では、リサイクルを、マテリアルリサイクル（材料として再資源化）、ケミカルリサイクル（原料として再資源化）、サーマルリサイクル（廃棄物を燃焼し熱回収）の３つに大別している。伝統構法の古民家の無垢の木材は、そのまま活用でき、家具等に転用も可能で、燃料ともなる。しかし在来工法の住宅の合板や集成材は、加工転用が難しく、接着剤が含まれているので安易にストーブ等では燃やすことができず、対応できる炉でサーマルリサイクルするしかリサイクルの方法がない。また、現在大量に使われているプラスターボードは、回収され再生されマテリアルリサイクルしているが、新品一枚300円前後のボードの処分には約1000円のリサイクル費用を要する。合板やプラスターボードに比べ、木の無垢材は容易にマテリアルリサイクルが可能で、工業製品でない昔からの材料がいかに理にかなった材料であるかを痛感する。やはり日本の伝統構法が千年かけて確立したシステムは、リサイクルの側面から考えても、すばらしいポテンシャルを有している。改修や新築の材料を選択する際に、将来のリフォームや解体時のリサイクルまで、今後は十分配慮していくことが望まれよう。

さて、今年度の審査委員会は10月1日に開催され、最初に7名の審査委員が14件の応募作品を各自読み込んだ後、一人7票を各作品に投票した。今回は満票の作品がなく、5票が3作品、4票が6作品と票が割れた。意見交換の後、3票以下を選考からはずし4票以上の9作品に対して、各審査員が3票を投票した。その結果、4票が1作品、3票が3作品、2票が4作品となった。その際、共同住宅の二住戸を一住戸に改築した作品について、合法だが管理組合の了解がえられているかが確認できず、投票に慎重にならざるを得なかったものがあった。意見交換の結果、再々度、3票以上の4作品に対して各審査員2票を投票し、5票の作品に知事賞、4票の作品に理事長賞とすることを決定した。残った2作品に関して、施主自らが施工に参画しローコストで古民家を改修した作品が企画賞にふさわしいとの意見で一致し、他の一作品を奨励賞とした。再度審査員で全作品を見直し、当初4票だったRC造の共同住宅のリフォーム作品も奨励賞とし、基礎を補強し壁を増やした古民家改修に特別賞（耐震補強）、車椅子で生活できるようにバリアフリー化した作品を部門賞とした。今年度は、応募数が昨年より減ったこともあり、知事賞、理事長賞の他に、企画賞1作品、奨励賞2作品、特別賞1作品、部門賞1作品の総計7作品を受賞対象として最終決定した。なお、審査終了後、各応募者･設計者･施工者が事務局より審査員に開示され、また、今後のコンクールの募集内容等について意見が交わされた。

住まいのリフォームコンクール審査委員会

委員長　鯵坂　徹　［ 鹿児島大学大学院理工学研究科　教授］

■審査委員

委員長	鯵坂　徹	鹿児島大学学術研究院理工学域工学系教授
委　員	古川　稔	(一社)鹿児島県建築士事務所協会会長
委　員	有元　綾	(公社)鹿児島県建築士会女性部会副部会長
委　員	木場　正人	(一社)鹿児島県建築構造設計事務所協会会長
委　員	岩元　ミユキ	鹿児島県インテリアコーディネーター協会会長
委　員	高崎　智幸	鹿児島県土木部建築課住宅政策室長
委　員	西薗　幸弘	(公財)鹿児島県住宅・建築総合センター理事長

知事賞

「思い出はそのままに　安心して過ごせる家へ」

築48年の木造二階建ての住宅の西側にあった二間続きの和室及び水廻り部分を減築し月極駐車場と庭を整備し、新たに旧和室の部材を一部再利用して8畳の和室と水廻りを既存北側に増築した計画。耐震性能をIw値0.3から1.39に、そして断熱性能も向上させ、明るく住みやすい住居にリォームされている。使いにくいゾーンを思い切って改築して、収益を得られる駐車場に変えた設計手腕だけでなく、長期優良住宅、BELS認定の認定申請や鹿児島市の耐震診断・耐震改修補助制度を使い、鹿児島市と国土交通省長期優良住宅化リフォーム事業の補助金を活用した点も高く評価でき、鹿児島県知事賞に選定した。

企画賞

「民家再生」

48年前に移築してきた古民家を、施主自らも工事をしながらリフォームした計画で、ローコストで実現されている。写真から判断すると、本体は江戸期か明治期の伝統構法による二ツ屋（なかえ・おもて）だったのではないかと思われる。旧なかえ部分と想像される西側の土間部分の多目的室の上部がロフトして活用され、樋の間にあたる部分に通り土間が設けられている。また、旧おもてと思われる東側部分の玄関にも土間が設けられ使いやすい拡がりのある一室空間となっている。屋根が切妻屋根で入母屋でないので元は茅葺きだったのかとも考えられるが、これまでの経緯や、詳しい資料がなく、それらが添付されていれば、審査でより高い評価が得られた可能性があった。

奨励賞

「機能性と遊び心を両立させた住まい」

築29年の4LDK のRC共同住宅の一室をリフォームした計画。4LDKの小部屋の区画を撤去し、リビングを拡充し2LDKにリフォーム、また、桜島の降灰を考え窓際にドライルームが設けられている。LDK以外はストレージと寝室がワンルームのみというわりきった平面計画で、しかもその寝室の間仕切り壁にはLDKの間に窓が設けられている。実質的には若い世代が住みやすいほぼワンルームの提案で、今後、家族の成長とともに少しずつ変化が生じていくのかもしれない。

バリアフリーリフォーム部門賞

「バリアフリー工事で笑顔の絶えない住まいへ」

家族が病のため車椅子で生活を余儀なくされ、介護を軽減して住み続けられるように築25年の在来工法の木造住宅をリフォームした作品。水廻りの段差や扉を改修しただけでなく、コの字型の囲まれていた庭をリビングと同じレベルの広縁に改修、スロープを取り付けることにより、車椅子で容易に出入りできるように改修した点が評価できる。今回応募の中で、最小の工事費でより快適に住み続けられる住宅にリフォームされており、部門賞となった。

理事長賞

「隣どうしで暮らす日々～別棟二世帯リノベ～」

東西に木造平屋二棟が並んだ親世帯（築35年）と子世帯（築48年）の住宅をリフォームし、住み手を入れ替えた計画。双方の住宅とも、これまで小部屋に区画されていた諸室を見直し、耐震要素に注意しながら大部屋化し、南面に快適なLDKを創出している。応募資料を見ると一旦軸組みの状態にまで仕上げを解体し、耐震補強を実施している。この計画も知事賞案と同様、断熱材新設、外部建具取替により断熱性能を向上させ、また、耐震性能も向上させており、長期間活用できる住宅にリフォームされている点が確認できた。また、応募資料に参考資料として図面と工事写真が添付されており、審査員が内容を理解しやすく好感がもてる提案だった。

奨励賞

「歴史を住み継ぐ「なかえ」のある癒しの家」

薩摩川内市の築約120年以上前の二ツ屋形式を継承したと考えられる古民家のリフォーム。昭和期に貼られたと思われる合板やビニールクロスを撤去し、本来の古民家の美しいインテリアに近づけている。外部建具の一部を複層ガラスに交換する等の機能の向上も行われ、古民家の活用事例として評価され、奨励賞となった。是非、さらに末永く住み続けてもらいたいものである。

特別賞

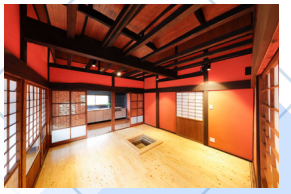
「鎮守の杜の古民家」

築100年の古民家をリフォームした作品。施主自らが伝統構法の古民家の内部を軸組が見えるまで解体し、ジャッキアップし礎石補強を行った計画。和室四室の田の字方の古民家の平面を、縁側を取り込んだ広いLDKと水廻り、クローゼット、玄関・勝手口に変更し、耐震要素となる壁面を設けながら現代風の家事関連スペース・収納の充実した平面に改修されている。耐震性能を向上させている大壁の構造補強壁が設けられており、この点が評価され、特別賞に決定した。大壁構造の洋室のため、今後のシロアリ対策等に注意が必要かもしれない。

知事賞
「思い出はそのままに　安心して過ごせる家へ」 1p
有限会社ゆうあいプラン

理事長賞
2p 「隣どうしで暮らす日々～別棟二世帯リノベ～」
有限会社イヤダニ工務店

企画賞
「民家再生」 3p
松村　彰



特別賞
4p 「歴史を住み継ぐ「なかえ」のある癒しの家」
有限会社福山組

奨励賞
「機能性と遊び心を両立させた住まい」 5p
ヤマサハウス株式会社

奨励賞
6p 「鎮守の杜の古民家」
株式会社建築工房 Work・Space

バリアフリーリフォーム部門賞
「バリアフリー工事で笑顔の絶えない住まいへ」 7p
有限会社西谷工業

知　事　賞

思い出はそのままに　安心して過ごせる家へ

第２９回
住まいのリフォームコンクール

リフォーム前

お母様がおひとりでお住まいの、築 48 年の木造２階建て住宅。二間続きの和室に広縁、客間、おひとりで過ごすには十分すぎる広さ。また、和室のある西側の基礎や外壁は、特にひび割れなど劣化がひどかった。そこで、和室部分を解体・減築し、そのスペースを月極駐車場として有効活用することに。
子供が独立し、夫婦ふたりもしくはひとりになると、あまりにも広い家は効率的ではなく、防犯面での不安や冷暖房費も余分にかかる。今回は、生活スタイルにマッチした住空間にするためのリフォーム、これから増えていくだろう“減築リフォーム”となった。

■和室
昔ながらの二間続きの和室。大工さん造りの手間のかかった材料の床柱・障子などは、新設の和室に加工・移設し再利用。

■ＬＤＫ　居住スペースであるリビングには、窓がないため光が入らず、昼間でも暗かった。

■外観

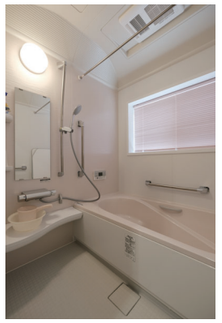
リフォーム後

■和室　明るく、落ち着いた雰囲気の空間。

■庭園
駐車場の残りの敷地をコンパクトながらも広がりのある庭へ。リビング・和室は、庭とのつながりを確保し、光と風が入るよう工夫。

■玄関及びアプローチ
既存を活かしつつ、庇など劣化がある所はやり替え、明るい玄関に。

■トイレ



■浴室

■干場
洗面脱衣室のすぐ横に干場を配置。
洗う→干すがスムーズな動線に。

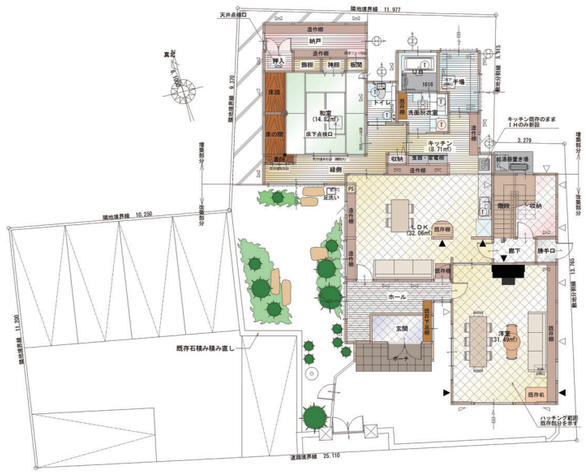
■LDK　壁・天井に断熱工事を施し、夏は涼しく冬は暖かい快適なリビングに。造作棚は、オーダーメイド。

リフォーム前平面図

設計施工のポイント（増改築等の工夫）

- 今回増築の和室には、既存の和室で使用していた床柱や障子などを加工・再利用し、新しい中にも懐かしさを感じることができる。
- 水回りが一ヵ所にまとまった家事動線と廊下を設けず生活スペースを一周できる回遊動線で家事効率アップし暮らしやすさを実現。
- 庭を造り、景観をよくしつつ、お母様が普段過ごすことの多い和室とリビングに庭を通して光と風が入るよう工夫。
- 天井、壁、床に断熱材を設置し、断熱性能の向上を図った。
- 窓は、内窓の取付やカバー工法により複層サッシに交換。
- 古くなっていた設備関係は交換し、浴槽は高断熱浴槽のユニットバスへ、便器・洗面化粧台は節水型とし省エネ化を実現。
- 地中に埋まっていた配管は、維持管理しやすいようヘッダー方式にやり替えた。
- 長期優良住宅、ＢＥＬＳの認定申請を行い、性能を高めつつ住宅への付加価値をプラス。

リフォーム後平面図



応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	リフォーム内容
㈲ゆうあいプラン	㈲ゆうあいプラン	高吉　辰典	４８年	木造	一戸建て	２０１９年３月	１８０日間	２１００万円	減築・増築・耐震補強・断熱・外装・内装・設備

理事長賞

隣どうしで暮らす日々～別棟二世帯リノベ～

第２９回
住まいのリフォームコンクール

リフォーム前

●リノベーションまでの経緯

元々は、東西に並んだ二棟の家の東側に親世帯（お父様）、西側に子世帯（ご夫婦＋子ども４歳）がそれぞれお住まいでした。

子世帯はお子様の成長に伴い、別の土地に新築住宅を建てる事も検討されましたが、今後の子育てや将来のお父様の高齢化、建築コストなどを考慮して、これからも親子世帯が並んで暮らす別棟型二世帯住宅でのリノベーション計画となり、両棟の一体的な計画を行いました。

今回のリノベーションを機に、東側の床面積の大きな家に子世帯、西側の小さな家に親世帯が、今までと入れ替わりで住まう事となりました。

●新•親世帯（旧•子世帯）

1
▲室内に大きな段差のあった玄関

2
▲小さく区切られた室内。フスマ上にある欄間は、家族の記憶としてリノベ後も再利用した。

3
▲居間の様子。
奥は北向きで暗い台所。

4
▲脱衣室がなく、出入口や浴槽の段差が大きかった浴室。

5
▲独立していた洗面。トイレの開きドアと干渉している。

●新•子世帯（旧•親世帯）

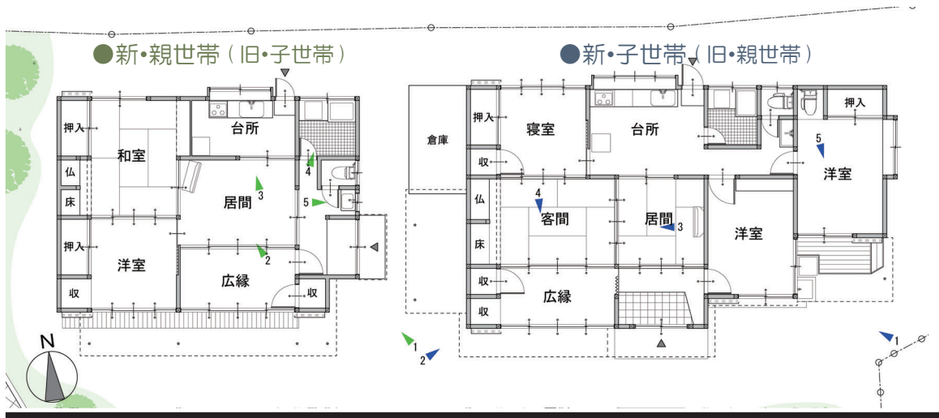
1
▲南側の外観

2
▲南西側の外観。
広縁の一部は、後から増築されたものであった。基礎が無く構造的に不安定だった為、今回の計画で撤去した。

4
▲広縁があり、光が入り難く日中でも薄暗い室内。

3
▲居間から見た客間の様子

5
▲数年前まで高齢者室として使われていた洋室



リフォーム後

2
▲手前は親世帯への動線となる勝手口

3
▲ワンルームとした子世帯ＬＤＫ。
右奥は、将来２部屋に仕切る予定の子ども室。

4
▲ＬＤＫに設けた大きな掃き出し窓。
目前には、光あふれる庭と菜園が広がる。

1
▲子世帯の南側外観。手前が増築部分。

●新・親世帯

費用を抑えつつ快適性の向上を目指すため、大掛かりなリノベーションの範囲は、居間・台所・水まわり・玄関など生活のメインとなる部分に絞って計画を進めました。

暗く風通しの悪かった室内は、ワンルームとして計画し光と風を取り込みます。天井を屋根勾配に合わせ高くとり、既存の太鼓梁を化粧材として現しにしました。

将来の高齢化による生活介助を考慮して、今まで分散していた水まわりは一つの空間としました。室内の出入口は、車イスでも使い勝手の良い引き戸とし、特に浴室は入浴介助も行いやすい様に３枚引き戸とし、間口を広くとりました。

他にも室内の段差解消や玄関ポーチのスロープ化、手摺の取付、玄関上り框の段差を小さく抑えるなど、バリアフリー化を行っています。

断熱材の新設により、部分断熱改修も合わせて実施しました。

1
▲室内の段差解消のため、あえて高さを上げた玄関ドアまでのアプローチは、スロープにて段差を緩和。
表面の仕上げは、豆砂利の洗い出しなので滑り止め効果も期待できる。

3
▲浴室の扉は間口を広く確保

2
▲高天井とし既存の太鼓梁を化粧仕上げとした親世帯ＬＤＫ

4
▲洗面トイレを一室とし、一体的に使える水廻り。

5
▲バイクや車が好きなご主人の書斎兼趣味室は土間仕上げにて

●新・子世帯

思い入れのあるご実家に長く住み続ける事や今後の子育て・建物の老朽化などを考慮して、増築を含む全面リノベーションとして計画しました。

田の字型に仕切られ、暗く風通しの悪かった居間・台所・客間は、ワンルームのLDK として、南の庭に面して配置しました。将来 DIY にて設置予定のウッドデッキを介して、緑豊かな庭や菜園とつながります。

また、別棟の親世帯にも面しているので、日々のコミュニケーションが取りやすく、二世帯住宅として程良い距離感でお互いが過ごせます。

断熱改修においては、断熱材の新設、サッシの取替えなどを行い、外皮平均熱貫流率（UA 値）を改修前『3.1W/ ㎡·K』から改修後『0.84 W/ ㎡·K』（断熱性能等級４達成）とし断熱性能を確保しました。

耐震補強は、劣化のあった構造材の取替え•金物補強や筋交いの追加などを行い、耐震性能を向上、耐震診断にて安全性を確認しています。

応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	リフォーム内容
㈲イヤダニ工務店	㈲イヤダニ工務店 設計事務所	㈲イヤダニ工務店	新・親世帯：築３５年 新・子世帯：築４８年	木造	一戸建て	２０１９年４月	２１０日間	２１００万円	親世帯：内部リノベーション・部分断熱改修 子世帯：全面リノベーション・増築・断熱改修・耐震補強

企　画　賞

民家再生

第２９回
住まいのリフォームコンクール

リフォーム前

リフォーム後

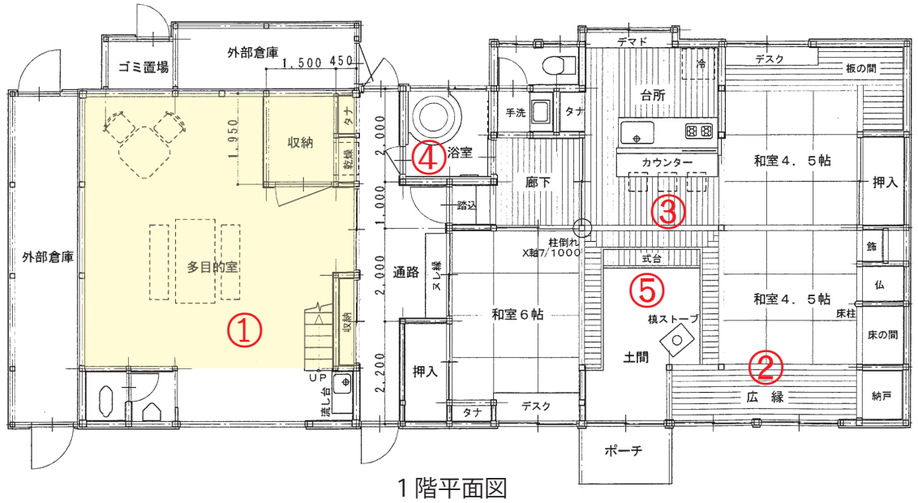
①納屋には流し台、冷蔵庫、トイレ、TV を設置　②季節の変化を楽しむことが出来る縁側　③調光スイッチ (7 カ所) を用いることで、ほの暗さを演出
④竈をイメージした長州風呂無節の檜 (つや消しクリアの自然塗料で防腐、防水) と油煙を使用したモルタルで仕上げました
⑤元々和室だった土間スペースに、TV、薪ストーブを設置　内と外をつなぐ中間領域としパブリックエリアとして庭の役目やリビングの役目、来客スペ―スといった社交空間としました
⑥物置だった部屋を照明器具の設置だけで、モダンなフリースペースとして活用できます

設計施工のポイント（増改築等の工夫）

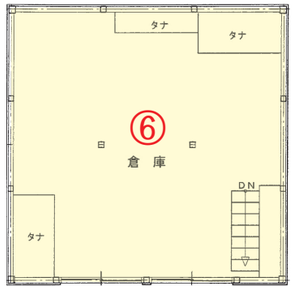
幼少の頃過ごした祖母の家が、土間、五右衛門風呂のある古民家でした。縁側で昼寝をし、五右衛門風呂に薪をくべ、夜は蚊帳を吊り下げて寝る。そんな生活をしていました。そのせいか、古民家に郷愁を感じます。

この物件は、築 100 年ほどの古民家を昭和 46 年に現在の場所に移築した建物です。移築の際に、木製サッシがアルミサッシに変えられ、五右衛門風呂からホーローの浴槽に取り替えられ、その他にも変わった個所があり自分の中で納得できず、今回のリノベーションに繋がりました。工事や資材の調達も自分ができるところは自分でやり、理想の家を作り上げました。

リフォーム後平面図



１階平面図



２階平面図

応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	リフォーム内容
柗村　彰	アンテナ・デザイン合　同　会　社	柗村　彰	４８年	木造	一戸建て	２０１７年４月	２００日間	７００万円	全面リフォーム

奨　励　賞

歴史を住み継ぐ「なかえ」のある癒しの家

第２９回
住まいのリフォームコンクール

リフォーム前

① なかえ･台所改修前(写真左)と天井裏の様子(写真右)

《リフォームに向けて》

歴史ある建物は、幾度も増改築を繰り返されているが、最も古い「なかえ」は、築163年前(安政4年)のものが現存する。内装はベニヤやクロスでおおわれ、天井は低く圧迫感と暗いイメージの空間となっている。外壁は、既存板壁の上にプリント鋼板となっており、冷たく古びた印象を受ける。

▼

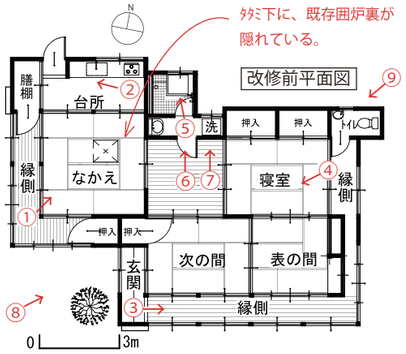
経年老朽化してきた住宅を改修し、代々受け継がれてきた建物を生かし暮らしたいという施主様のご要望があり意匠に加え機能の向上を併せ持つ住まいづくりを目指す。

② 台所改修前

⑧ 玄関アプローチ改修前

⑨ 北側外壁改修前

③ 南側縁側改修前



リフォーム後

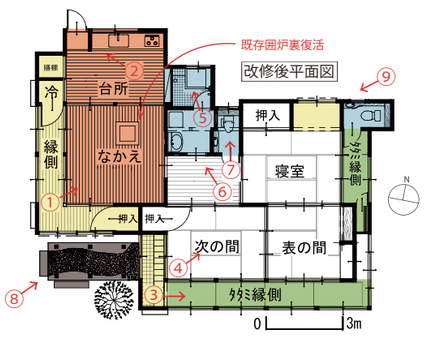
① 既存ベニヤを撤去し、台所と「なかえ」をつなげ、開放的な空間とした。壁は現存漆喰をはがし、当時のワラ入り土壁の上に珪藻土 (ベンガラ) 塗り壁とし、歴史を感じる内装とした。

② 台所キッチンスペースを北側へ増築
天井撤去→吹き抜けとした。

▲焼き杉板製作状況
炭落とし→磨き

③ 板床→タタミ床に

④ 居間全体を見渡す

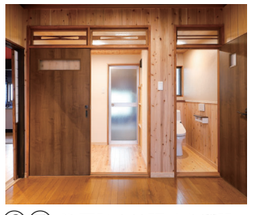


⑤ 浴室ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ＋擬竹

⑥ 新規トイレ

▲当時のワラ入り土壁が現れる

▼押入化粧桟→欄間に転用



⑥⑦ 洗面脱衣拡張･ﾄｲﾚ増設

《いつまでも暮らしていただける癒しの住まいを完成》

- 吹き抜け部天井～壁は、断熱材を敷き込むことで、断熱性能を向上した。
- 床面には、床暖房システムを採用し、西側ハキ出し窓は複層ガラスと断熱雨戸を採用することでさらに断熱性能を高め、快適な住空間となるよう計画した。
- 内装壁は、既存土壁の上に脱臭性・調質性の優れた珪藻土塗りとした。これにより本来の漆喰機能を維持しつつ、悪臭・有害物質を吸収することで、快適性に配慮した。
- 洗面脱衣前は、間仕切上部に明り取りを設け、自然採光を確保することで明るい印象の空間とした。加えて、処分建具の化粧押え桟を欄間格子に転用することで、当時の繊細な意匠を生かす計画とした。
- 新設玄関アプローチは、玄関と外部をつなぐ縁側的な存在とし、周囲の和風庭園と馴染む仕上げとした。
- 外壁は、当時の雰囲気を思わせる腰板(焼き杉仕上げ)＋下り真壁とすることで、歴史を感じられ落ち着いた風情のある佇まいとした。

応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	リフォーム内容
㈲福山組	㈲福山組一級建築設計事務所 福山　征志	㈲福山組	１２３年～１６３年	木造	一戸建て	２０１９年８月	６０日間	７７０万円	内外装（水廻り）増築～改修

奨　励　賞

機能性と遊び心を両立させた住まい

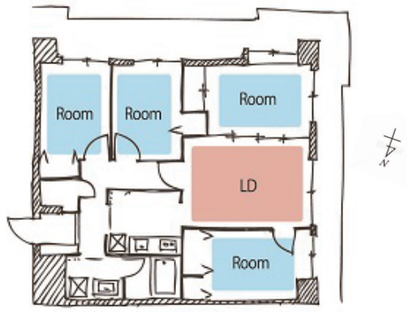
第２９回
住まいのリフォームコンクール

リフォーム前

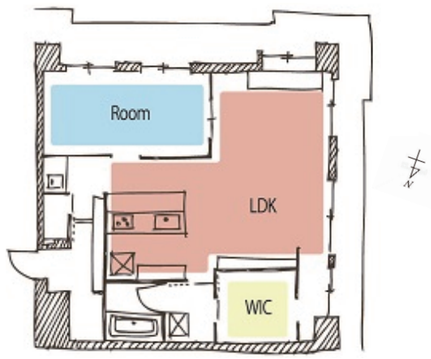
・設計にあたり、家族３人の子育てファミリー向けの住まいを目指しました。
・生活スタイルの多様化が進む中、「リビングでの家族の時間」に焦点を定めて大空間のリビングダイニングを設計。角部屋を活かした明るい空間が生まれました。
・家事導線は回遊性を意識し、ドライルームを新設しました。
・寝室には可変性を持たせ、家族の成長と共に将来的な 2LDK 化も可能な作りとなっています。

【現況写真】

【解体後の状況】



・回遊性ある家事導線を実現。
・生活の中心であるリビングも明るい大空間になりました。
・家族の成長に合わせ部屋数を増やすこともできます。



リフォーム後

Kitchen & Counter

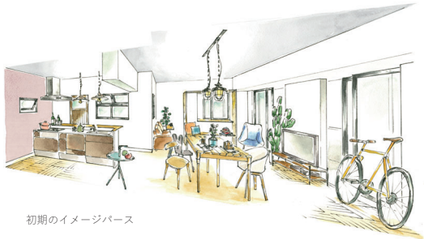
バーカウンターのような雰囲気のあるキッチン。壁面には表情のあるタイルが貼られています。

たそがれベンチ

リビングの出窓の前にゆっくりくつろげるベンチを作りました。電車が行き交う様子を眺めたり、本を読んだりとリラックスできる場所です。

Living Dinning

とても明るく広いリビングダイニングの足元は無垢のパーケット材。
ダイニングテーブルも無垢材でまとめています。



初期のイメージパース

Dry Space

梅雨時期や火山灰が降る中でも、洗濯物を室内干しできる明るいドライルームです。
床は土間スペースになっているので植物を置くにも適しています。

ダイニング、キッチンでは見せる収納を楽しむことができます。

玄関からLDKまで続く床には無垢のパーケット材を使用。

たそがれベンチから、ぼんやりと電車を眺めることができます。

応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	リフォーム内容
ヤマサハウス株式会社	ヤマサハウス株式会社	ヤマサハウス株式会社	２９年	鉄筋コンクリート造	共同住宅	２０１８年１０月	４か月間	１０００万円	フルリノベーション

特　別　賞

鎮守の杜の古民家

第２９回
住まいのリフォームコンクール

リフォーム前

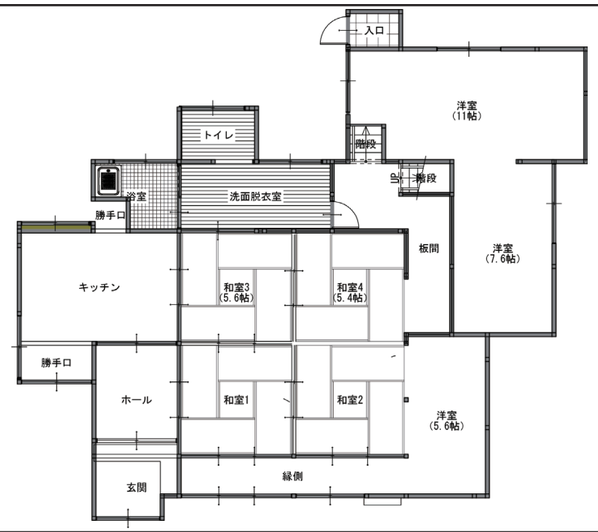
先祖から受け継がれた古民家を残すため、ここまでの工事（床・内装・畳・建具・天井）の解体は、施主様家族で行いました。

古い木材の良さと新しい住宅を融合させ新たな空間が出来ればと思いました。
吹き抜け部分と、立派な梁を上手く生かすことがリフォームの主役になると確信していました。

リフォーム後

外壁はモルタル塗り、聚楽塗装で仕上げました、梁を研磨し床のフローリングと違和感なく仕上げることができました。

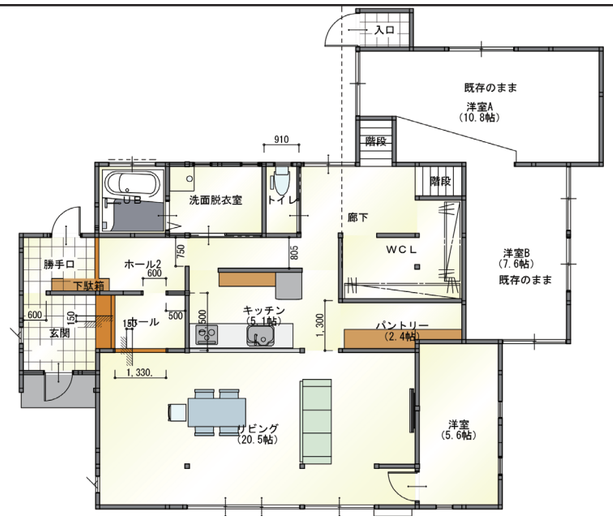
リフォーム前平面図



設計施工のポイント（増改築等の工夫）

建物の不動沈下や倒れ、床調整等にジャッキを使い補強しました。古民家特有の礎石基礎補強の為、ジャッキで柱を浮かし（持上げ）既存の礎石面積の約２倍の広さのコンクリートで補強する事で地震時に柱がずれ落ちることのないようにしました。
断熱は屋根・外壁には、グラスウール、床はカネライトホーム 45 を敷き込んでいます。柱や梁を出来るだけ露出させる事で継手や仕口などあまり目にすることのない当時の大工さんの技術を来客された方々や見て伝えてもらうことが出来ると思いました。玄関からホール・洋間に向かう入口と勝手口からホール・キッチンへ向かう入口二か所を設け「ハレとケ」の考えが基本となる間取り、パブリック空間とプライベート空間になりました。現在の生活スタイルと古民家が持つ木の良さをバランスよく組み合わせることが出来ると思います。

リフォーム後平面図



応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	リフォーム内容
(株)建築工房 Work・Space	(株)建築工房 Work・Space 大城　孝一	(株)建築工房 Work・Space	１００年	伝統構法	一戸建て	２０１９年1月	１１０日間	１３００万円	内部改修・外部塗装・模様替え

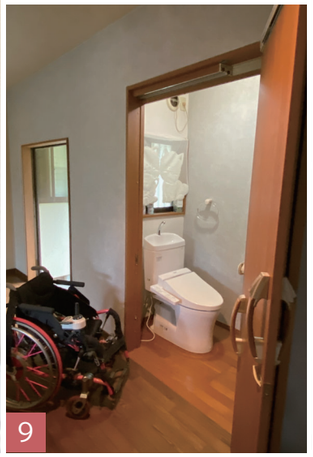
バリアフリーリフォーム 部門賞

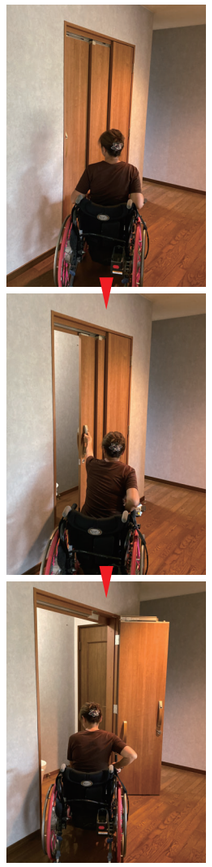
バリアフリー工事で笑顔の絶えない住まいへ

第２９回
住まいのリフォームコンクール

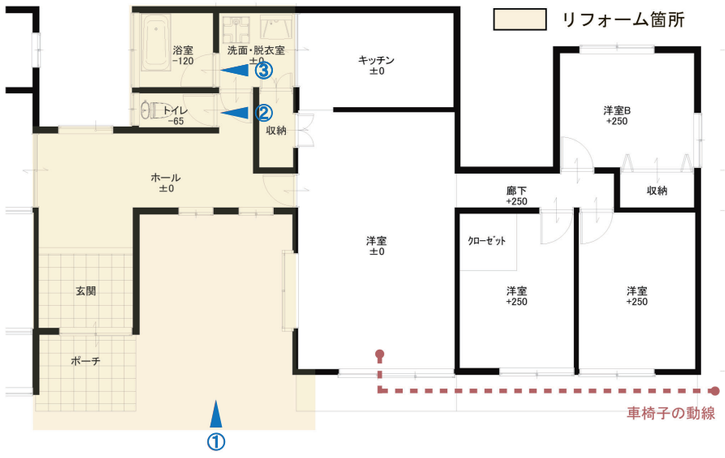
リフォーム前

リフォーム後





リフォーム前平面図



設計施工のポイント（増改築等の工夫）

息子様が筋肉の衰える病気になり、車いすの生活を余儀なくされた。今までの家では出入りをするのにも窓が大きく片腕で開けるには重たく、雨が降った日には屋根・庇などがないため雨に濡れ、荷物があると手が空かず不自由をしていました。（※写真モデルはお母様）

Point １　ウッドデッキスペース

南の玄関横の物置スペースをウッドデッキ、リビングの出窓を掃き出しサッシに変更することによって、快適な空間を生み出すと共に息子様の出入り口を確保した。

Point ２　段差解消とトイレの３枚扉

今までは段差もありお母さまの介助が無いと一人でトイレに行くのが困難だった。段差を解消し、トイレの出入り口を３枚扉にすることによって自力でトイレに行けるようになり、非常に喜ばれています。

リフォーム後平面図

応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	リフォーム内容
㈲西谷工業	㈲西谷工業	㈲西谷工業	２５年	木造	一戸建て	２０１９年６月	４５日間	４１９万円	浴室・トイレ・リビング・バリアフリー工事

今年で第２９回を迎える「住まいのリフォームコンクール」は、
広く県民の方々に住宅リフォームの普及促進と質の向上を図るべく、
（公財）鹿児島県住宅・建築総合センター主体の元、実施しているものです。

令和元年 10 月
発行：鹿児島県住宅リフォーム推進協議会